



H30.10 VOL.3

COOL Matsujō

MATSUMIYAMA GIRLS HIGH SCHOOL

松女 2 学期のスタートです

県立松山女子高等学校長 榎本克哉

みなさん、こんにちは。長いと思っていた夏休みもあっという間に終わり、いよいよ松女の 2 学期が始まります。

この夏休み中においても、陸上の北川さんがインターハイに出場、長野で開かれた全国総文祭には、箏曲部、書道部、文芸部が出場しました。また、音楽部は県合唱コンクールで県知事賞を受賞し、関東大会へ。そして、先日開かれた関東大会で堂々の金賞 2 位で全国大会の切符を手に入れました。このように松女生の活躍は、まだまだ続いていきますので、これからも応援よろしくお願ひします。



求められる具体化の力

始業式では金足農業の躍進を例に「具体化する力」について話しました。金足農躍進の要因の一つといわれている秋田県の「高校野球強化プロジェクト」。このプロジェクトの柱が「具体化する力」をつけることだったので。今まで漠然としていた「甲子園で勝つ」というイメージを経験に裏打ちされた“はっきりとしたイメージ”として共有することで、どこか遠く感じていた目標を具体的にしました。日常生活での徹底した“意識付け”と“勝ちパターン”意識の徹底。松女生にも必要な力なのでいでしょうか。

生徒会立会演説会 開催 松女の歴史を動かす力とは？

9月6日(木)の6限に次期生徒会本部役員立候補者による立会演説会が体育館で行われました。



松女は今年で93年目を迎えます。この100年近くの松女の歴史をうねりをもって動かし創り上げてきたのも紛れもなくその時代を生きた松女生です。そして、これからの松女の歴史を創り上げるのは、松女という組織体としての学校ではないし、もちろん我々教員でもない。ここにいる松女生、君たち自身なのです。君たちは

もはや子どもでない。選挙権をもつ主権者もいれば、新たな法改正に基づけば成人を迎える立派な大人。松女の歴史を担う松女生だからこそ、「松女が君たちのために何をしてくれるのかを問うのではなく、君たち自身が松女のために何ができるのかを問うてほしい」「私はこうありたい」「私ならばこうする」等々。君たち一人ひとりが学校そのものにコミットすることが、松女の歴史を積み上げていく「動かす力」となるのです。新たな生徒会の発足とともに、昨日より今日、今日より明日に向けて成長進化を遂げる松女に期待したい。

川島中学校 文化祭 これからも伺います！ 松女書道ガールズ

9月8日(土) わが松女書道ガールズが川島中学校の文化祭に出演いたしました。1年生20人を新たに加わえ、1,2年生だけでの初めてのパフォーマンス。初陣とは思えない、とてもはつらつとして元気があって素晴ら



しいパフォーマンスだったと思います。川島中の生徒たちも圧倒されていたのか、見惚れていたのか、皆さん静かに？パフォーマンスに見入っていました。そして、最後にお礼の言葉をいただいた川島中の生徒からは「はね」、「とめ」など書道の核心に触れる言葉をいただきました。おそらく、書道に精通している生徒さんなのでしょう。是非、松女書道部への入部を期待しています。

「異校種交流」 共生社会の実現へ ～ 川島ひばりが丘特別支援学校との交流！

9月12日(水)、共生社会の実現を目指して、25人の松女生が交流を深めるために、川島ひばりが丘特別支援学校を訪れました。エントランスでの登校見学。たくさんのバスが学校に次々と到着。この時ばかりは、先生方も大忙し。校内施設見学後には、はじめの会です。高等部の生徒たちとのフールツバスケットで一気に盛り上がってきました。全体でのはじめの会終了後、各クラスごとに分かれての交流でした。ものづくりや藍染めなどの体験、運動などそれぞれ工夫された交流に松女生たちもどんと交流を深めたといった様子が伺えました。始めは、なかなか表情が硬かった松女生もしいにいつもの松女生として振る舞っていました。



チャンプ本は誰の手に「ビブリオバトル松女大会」決勝ラウンド開催

高校生がお薦めの本の魅力を語り、聴衆が最も読みたい本に投票する書評合戦「ビブリオバトル 2018 松女大会」の決勝ラウンドが松女図書室で行われました。ビブリオバトルとは「本」を意味するラテン語由来の「ビブリオ」と、「闘い」を意味する「バトル」を組み合わせた造語。参加者がお気に入りの本を持ち寄り、順番に5分間で、その本の魅力などを紹介する書評ゲームです。決勝ラウンドは、2年生の嶋田由美さん「もったいないばあさん」、間千聖さん「図書館戦争」、佐々木香遥さん「この世界にiを込めて」、赤羽ののかさん「優しい死神の飼い方」、1年生で松下琳香さん「フォルトナの瞳」、清水野乃花さん「シャーロック・ホームズの栄冠」の6名のバトラーで争われました。どのバトラーも出だしのつかみに工夫がされていて、本の作者と同様にバトラーによる5分間のストーリーが聞いている人たちにハラハラドキドキといった一種の高揚感を与えてくれました。今回の大会では、チャンプ本は2年生の赤羽さんの「優しい死神の飼い方」、準チャンプ本は佐々木さんの「この世界にiを込めて」に決定いたしました。二人は、桶川文学館で行われる埼玉県大会に出場することになります。松女バトラーの活躍を皆で応援しましょう。



平成30年度オーストラリア海外授業体験学習

今年は、8月12日から20日の9日間、オーストラリアへ海外授業体験学習に出かけました。今回の海外授業体験では、クイーンズランド大学での講義、アボリジニー文化体験、Caboolture State Highschoolでの授業など内容は盛りだくさん。松女生たちは、現地の生徒やホストファミリーの方々と積極的にコミュニケーションを図り、生き活きと各プログラムに取り組んでいました。

Farewell Partyでは、松女の校歌を披露したほか、日本文化の紹介を行い、Caboolture State Highschoolの生徒や先生方、ホストファミリーの方々に大変喜んでいただきました。

